

「言葉・物語」の「受容・表現」を足場とした個別のリアリティの 明晰化法と多元的一性

田村 高幸 (Takayuki Tamura)

千葉大学

わたしたちの社会においては、社会の中の言葉やストーリーにより、個別者がいろいろなものを受け取らされ、それが個別のリアリティの在り方に大きな影響を及ぼし、個人のリアリティやアイデンティのあり方の十分な展開が難しくなっている。また、抑圧の中にある当事者が個別のリアリティを表現していくことに困難を感じる状況がある。このような状況から抜け出し、個別のリアリティが十全に発揮され、お互いにそれを受け止めあい、お互いのリアリティを生き生きさせるようなコミュニティのリアリティを構築・発展させて行くには、どのような方法があるだろうか？

このような多元的一性に向けた問題に以下に答えるかという意識のもとでの「言葉・物語」の「受容・表現」を足場とした個別のリアリティの明晰化方法について、ウイトゲンシュタイン哲学からの視点、学ぶことのユニバーサルデザインに裏打ちされた非認知能力からの視点、及びアスペクト・概念形成を基盤とした多元的一性の視点から提題を行い、それらをもとに総合討論を行う。

提題者及び提題のテーマは以下の通りである：

- 榎野 沙央理 (大正大学) 「ウイトゲンシュタインにおいて見かけが問題となる時」
- 山田 瑞紀 (早稲田文化館) 「自己を語る当事者の物語が多元性を支えるという観点」
- 目時 修 (城西国際大学) 「創造的な知識について」
- 田村 高幸 (千葉大学) 「アスペクト・概念形成からの多元的一性」